



MikuMiku Parfait

MikuMiku Parfait



ミクミクパフェ

MikuMiku Parfait

V O C A L O I D 2
HATSUNE MIKU!



まえがき

はじめまして or こんにちは～!
Iolite のやたのです。

今回はななんと緑髪ツインテールっ娘が表紙の同人誌。
そう…今、世間を騒がしているあの動画やあの歌声、たくさんいっぱい感銘を受けて作ってしまいました初音ミク本!

どんな本になるかは全く予想もつかないですが、きっと楽しくて萌えてちょっとえっちな本になる!…といいな、(´ー`)

そんなわけで「みつくミク!パフェ☆」遂に始動!
ズザザっと、本文へとぞー!!

はじめに



こんにちはっ!!
初音ミクです!

こんにちは
黒ミクです

すごいですよ!
今回はミクが表紙の
同人誌が出るですよ!

Love the music...

どうしよう!
私もよく目立っちゃう
がとー!!

たわけがーっ!
何を浮かれとるー!
ネギ振りはどうした?
木ーカローイドの修行は
厳しいのじゃー!

喝!
ネギ振り干本!
牌が入っとらん!!

これは
みっみっハ★の
格まらんあー

初音ミク調教中…1



現在、初音ミクは歌のレッスン中。
こうやってパソコンの中で毎日猛練習をしているに違いない！
間違えたらネギ振りの10本セット！とか。

HATSUNE MIKU!



ねんがんの伝説のネギをてにいれたぞ!

おいしいネギの召し上がり方。
三日三晩寝かしてから食すべし。



んが...んが...んが...

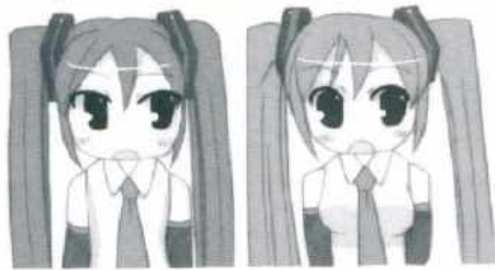


はむはむ。わーい。村* (´ー´) うまー
試練を乗り越えるとしフトバンドネギに。
これで左利きでも振れるネ!?

初音ミク調教中…2



ウニマニヤにや。
ウオーカロイドにはどんな苦難が待ち受けているかわからない！
例えネギが降ろうとも明日へ向かって歌い続けなければいけないのです。



立場的に...

鏡音レン

鏡音リン



みつくミク！
パフェ★

～初音ミクって?～



「んで初音ミクって何なの?」



「そ、それをいきなり黒ミクさんが言うんですか……(苦笑)」



「いや、だって初音ミクがブームなのは分かるけど、よく知らない人って多いとみた! こんな本で言うのもナンだけど。」



「そんな身も蓋もないこと……。」



「そんなわけでえええ! じゃあ看板娘であるミクさんにせっかくお越し頂いているわけですし! まずはプロフィールから語って貰いましょうか〜!」



「は、はい、みなさんこんにちは。ヴォーカロイドの初音ミクと申します。ヴォーカロイドというのは……音楽ツールの一種で、パソコンで打ち込んだ好きな言葉を音声にして歌ってくれる、擬似的な声優さんのようなもので……。」



「……それで?」



「うーんと、それで、そうすると好きなように喋らせることができるから、自分のオリジナルの歌を作ることができて……。それをインターネットなどでアップしたりして、たくさんの人に聞いて貰えて……。その、だからニコニコ動画などで人気を博しているわけ……。」



「……それで?」



「あう。う。お、ヴォーカロイドというパッケージで私たちは販売されています。中身は専用のDTMツールなのでデスクトップアクセサリでもゲームでもありません。え、えっと……家族構成はお姉さんのMEIKOとお兄さんのKAITOがいます。それに最近ようやく妹の鏡音リンがデビューを……。」



「……それで?」



「う、うううう〜。もう無理です……ごめんなさい。やっぱり私、歌しか能がないんです〜>>><<」



「ああもう、逃げるな、逃げるな。まったくそんな消極的な紹介をしてどーする! アピールになってないだろう! それにまどろっこしい。もっと端的に説明できないのかね!!」



「は、はあ。端的にと申しますと?」



誕生日(デビュー)は?



「2007年8月31日です。」



年齢は?



「じゅ、16歳です。」



身長は?



「158cm……だと思えます。」



「おや?」



「どうしたんだね、ミク。」



「こんなところにスペースがありますよ、黒ミクさん。」



「ほお……どうやら我々は同人誌の狭間に迷い込んでしまったらしいな。」



「は、狭間って……?!」



「うむ。今まで同人誌に描かれては消えていったキャラクターたちが捨てられ彷徨っている場所。そう、かつてはクリスマスキャラクターだった、あのキャラこのキャラたちの怨念が……!」



「ひえええ……!! もしかして私たちが厄介払いされて、あの虚ろで妬ましそうに見つめている人たちと一緒に……。」 ガクガクブルブル



「というのは嘘で、我々が『中書き』中継所を占拠しました!」



「は?」



「なんだ、ミク。知らなかったのか? ここは『中書き』というスペースでたな。そこに看板も立ってるだろう。」



「え? ここはだっだっ広くて無味乾燥そうな空白スペースですよ……? 尊に聞く異次元空間とか虚無の世界とか……。」



「ちゃうわ。その空白は今から我々のトークで埋まっていくのだ。」



「じゃ、じゃあ、あの虚ろで妬ましそうな目で見ている人たちは?」



「テロの如く占拠されて悔しが的中継所のリポーターたち。」



「ちょ、ちょっとおおお黒ミクさん! 占拠だなんて勝手にそんな大それた事をしたら怒られてしまいますよ! 捕まっちゃいますよ!」



「大丈夫だ。一連の行動は漏洩しないように手は打っている。ほら、警備員が来る前に中書きを埋めちゃおう!」



「そう言う問題じゃな〜い!」



「いいからいいから。こうやって中書きでミクが全国に向けてスピーチすれば、目立つこと請け合いだぞ! きっとミクもすごいアイドルになれるかも……。 (そして私の懐にはたくさんのお金)」



「……すごいアイドル!? 本当……?」



「本当本当、いっぱいファンレター貰えるね。これは。」



「ファンレター……!? あ、あの……だったらその、ちょ、ちょっとだけですよ……?」



「おっしゅ、契約成立! そうとなればさっそく……黒ミクと!」



「わたくし、初音ミクが送る中書きコーナー! はじまりはじまりですー!!」



「結局ノリノリじゃないか……」



「結局ノリノリじゃないか……」

「そうきたか。確かに今の初音ミク代表ソングになった感はある。ニコニコ動画で僅か4ヶ月で再生数240万(12月現在)はミクの中でもダントツだ。ゴムも抜かれちゃったし。あーあ。でも個人的には組曲や陰陽師にはトップで頑張っていて欲しい……ほそり。」

「どーまん、せーまん♪……って、またあの4コマの歌ですかあ!? 私、もう歌わないですからね!」

「はいはい。そうすると『levan Polka』は外せないよな。はちゅねミク顔やネギ振りミクはあそこから派生したといっても過言ではないじゃろ。」

「うう、あの歌詞はちょっと歌いづらくて……。」

「そりゃ大本はフィンランド語だし。はい、白眼剥いてアホ娘面で叫んでください。」

「タビオカ☆パンッ!」

「それ、クラッシャーだから。」

「うー。私もっと綺麗な歌がいいです。『恋するVOC@LOID』とか『Packaged』とか!」

「いつも作業用BGMで聞いているいい曲だけど、やっぱりここで語るなら何かネタが欲しいな。」

「ネタなんていいですよもう。そんな黒ミクさんにはルイズさんもびっくりな『あなたの歌姫』が似合うと思いますよ!」

「な。そ、それって……わ、私がツンデシだとでも?」

「そうじゃないですかあ。ぶーぶー。」

「ええい! そんな先輩ミクたちの夢ばかり見て浮かれてないで、しっかり練習しろー! まったく……ニコ動見てない人からすると、よく分からない会話になってしまったじゃろ! ほらネギ振り千本!」

「え? わ? い、いきなり……! ?」

「アイドルの道は険しいのじゃ! このおっぱい嬢め、しっかり講教してやるから覚悟せえよ。フヘヘ。」

「きゃっ! や、やだぁ黒ミクさん、胸触らないでくださいよお。」

「……べ、別にミクばかり目立って私だって歌いたいとかそういうわけじゃないんだからねッ!」

「誰に言ってるんですか?」

「しらん。」



体重は?

「えっと、よ……42kgだったかな……。」

「スリーサイズは?」

「上から9じゅ……って、そんなことまで言わないといけないんですか! ?」

「はい、プロフィール紹介おしまい。」

「それだけ!? それって初音ミクの身体的特徴しか分からないじゃないですか!」

「いいんだよ、キャラなんだから。たぶん見てる人は今の方が良く分かったと思うぞ。あとは絵で保管。それよりもそのでかい乳は90もあるのかね。」

「わっわわ! ちょ、ちょっとそれナシです。忘れてください! アイドルなのに胸のサイズだなんて……だ、だめだめっぜったいっ! オフレコにしてくださいーい!! ><」

「無理なんじゃないかなあ……生放送だし。ウヘヘ。ま、世間様のミクはもっとスレンダーだからな。さしずめウチのみくバフェ用ミクは乳しか能がないってところか。」

「ひ、ひと! Σ(ㄥ) ああっもう! そんなことないですよ!! 私だって笑顔で皆さんを癒してあげることができるかもしれないじゃないですか!」

「そのでっかいおっぱいでたっぷり後半パートを癒してやっておくれ。」

「うわーん><」

~ミクのニコニコソングとか~

「うう、なんだかすごく嫌なことがあった気分……orz」

「まあまあ気にすることはない。嫌ならその巨乳をサラシでしばっておけばいいじゃない。」

「そんなの苦しいですよ。まったくもう……けっこう恥ずかしいんですから……。黒ミクさんは胸がないから分からないかもしれないですけど。」

「う(そう言われてまな板胸を見下ろす)」

「べったん、べったん、つるべったん〜♪」

「う、うるさいなあ。私の胸のことなどほっとけ!」

「あー、早くミクも他の先輩たちのように歌いたいにやあ。やっぱり歌ってるときが楽しいもん。」

「ほう、どんな歌を歌いたいのかね。」

「『みくみくにしてあげる♪』は憧れです☆ みくみくにしてやんよ〜♪」

■ミクとHなレッスン♪

るるん〜♪

あ、声の調子がいいみたい。今日はどんな歌でも歌えそうな気がする。

「やあ、ミク」

「あ、ご主人さま〜♪」

挨拶に私が笑顔で応えると、ご主人様がぽっこりと微笑み返してくれた。

彼が私をインストールしてくれたご主人様。

願はけうどういいでしょ？ それにとっても優しいの。

ちよつと汚い格好だったり臭ったりするけど……でもそれって男の人の香りだよな？

お母さんに似〜とって言われてたけど……すごい人なのかな？

「あのね、あのね、ミク、今日は——」

どう、昨日からずっと決めていたんだ。今日は絶対かわいいお歌を歌いたいわって。

だから——。



やだ、口が勝手に……

うん、ご主人様
だけだよ……あんっ

きゅっ

ミク、すごい大きな
おっぱいだね。
触っちゃって
いいの？

「あのね、あのね、今日は——ちょっと変な気分なの。ミクの胸をさすって欲しいんだ……」
え！？ な、なにそれ……。私そんなこと言いたがったんじゃ——。

「そっか。じゃあさすってあげるね」

彼は私の背後へ回ると、脇の下から手を伸ばしてきた。そうして、心にょんと胸に圧迫感。むにゅむにゅと彼の手が私の胸を揉む。

「あ……」

「ミクのおっぱいふかふかだよ。触っちゃってイイの？」

「うん……ご主人さまだけだよ」

や、やだ！ 勝手に口が……あん！ だめだよ。そんなにミクのおっぱい揉んじや……。

「ねえ。服の上からじゃなくて直接さすって欲しいな」

また口が……そ、そんなのやだ！ 恥ずかしいよ！ しがし、それは声にはならなかった。彼の手が無造作に私の胸元を開く……はっ！ つりつりのついたブラジャーにぎゅつと詰まった私の胸。

「どうしたんだい、ミク？ 顔が赤いよ」

「し、下着が……」

「そっか、この下着が苦しいんじゃないかな」

ち、違……そういう意味じゃな——。

彼は簡単に納得して私のブラに手をかけるのだった……。

そのままあっさりブラが下ろされ、はち切れそうなおっぱいが露わになる……ぷるん！

「うね、ミクすごい大きなおっぱいだね。それに乳首がピンク色だ」

「……」

もはや声にならなかった。恥ずかしくて恥ずかしくて、死んじやいそう！

彼はひんやりとした手で私の熱くなった胸をぎゅぎゅと揉む。

「はっ……あ……う！」

「どう？ はああこれがミクのおっぱい。やわらかくて温かい……」

なんだか染みが
できてるね
それにヌルヌル
しているよ

は……あう……
うああつ！

そ、そこ気持ちいい
もっとして……

やあ……
これ以上されたら私……

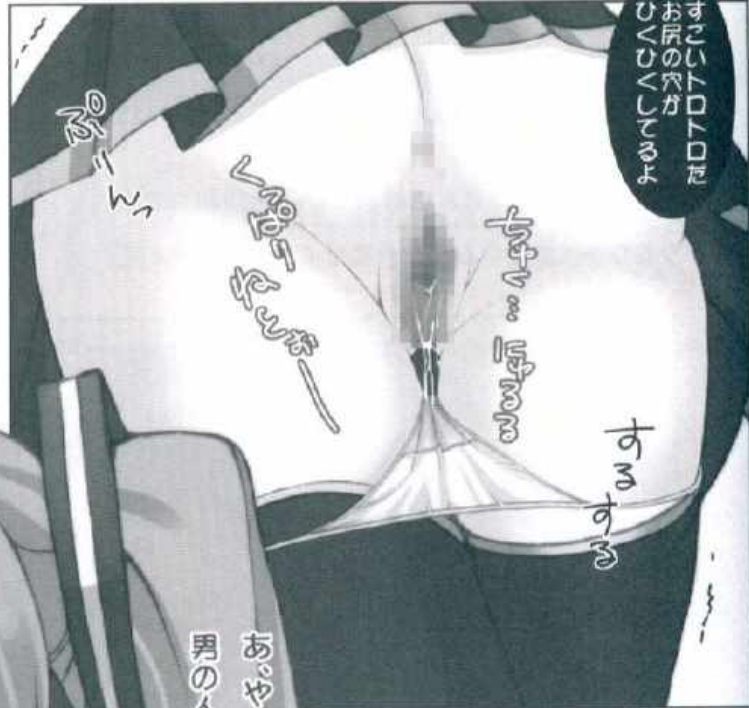
「ご主人様、私……お尻の辺りが変なの」
や、やだもう！ 私ったら何言ってるの……！
「そうが、しょうがないな。じゃあそこの机に手
をついてお尻を突き出してごらん」
「はい、ミクのお尻を見てください」
ご主人様が私のお尻をさすっていた。
やだ、見られちゃう！ミクの……濡れてるの
見られちゃうよ！
「へえ、かわいい下着だね。下着がお尻に食い
込んでいるよ。……あれ？」
彼は不思議そうにしてパンティのふくらみ
をつつく。
「なんだかここ、染みができてるね。それにヌ
ルヌルしているよ」
「は……あう……うああつ！」
見られた——！！そこは私の……
「ああんつ！」
くちゆくちゆ……彼の指が染み越しの秘部
を触るたびに、身体にしびれるような感覚が
走る。びくん、びくん！
「そ、そこ気持ちいいよ。もっとして……！」
やあ、また勝手に喋ってる！ これ以上され
たら私……！
彼はお尻に顔を近づけると、くにくにくに
にゆ。にゆるにゆる。れるれる。としたい放
題。
「とろとろ熱いのが溢れてきて、下着がひ
しょびしょだよ。それにこの甘の子の匂いは
……」
やああああ！見ないで！舐めないで！匂い
をががないで！

——くにく。くりくり。
あつやあ！？ そ、そこクリトリスッ！
「あんつあうんつ！ クリもつと舐めて！！
あ、いっちゃん、いっちゃんっ！ ク、クリで
イクッ！ クリでイクううん——！」
びくっびくびくっ……！
「ん、んあ……はあはあ」
私は堪えきれずに背中を仰け反らせて達し
てしまった。
はあはあ……
「どうしたんだ、ミク？ すこいえっちな声
をあけて……」
そんな……恥ずかしい事、言っていない……。
「ミ、ミク…すこく気持ちよかったの。あの
ね、ご主人様の欲しいな」
だ、だめだよ…それだけは……！ 私ってそ
んなえっちな子だった……の？
「しょうがないな。ミクがそういうなら……」
見ると彼の股間はパンパンにふくらんでいた。
シッパを下げると何がほろりと出る。
うわ……あの浅黒いものは、もしがして……
私は思わず目を背けて身震いする。

あ、いっちゃん
いっちゃんっ！

ク、クリでイクッ！
クリで
イクううん——！

彼は裸になると、私のパンティをするする…と下げる。そして
 臍を挿んで、そのままヌルヌルの秘部に棒先を擦りつける。
 「すごいトロトロだ。お尻の穴がひくひくしてるよ」
 そんなことを言って——ちゆく……にゆるる。
 あ、や、やだ！入ってくる！男の人が入ってくる！？
 す……す……にゆるる……にゆるる——すにゆるんっ！
 「んはああ！」
 「ミク……奥まで入ったよ……温かい」
 はあはあ……少し痛がったけど、彼のモノは私の中にすんなり
 と入ってきた。私はその刺激で過剰に彼のモノを締め付けてし
 まう。
 「うわ。うねるように吸い付いて……きゅうきゅうしてる」
 「だって気持ちいいんだもん」
 やだ、最低！ミク、ミクのこんな姿……見ないで！男の人とこん
 なことするなんて……ダメだよお！



すごいトロトロだ
 お尻の穴が
 ひくひくしてるよ

……ふあ！
 はっ……あうら
 ……あっ！ひい！

あ、や、やだ！入ってきたー！
 男の人が入ってきたー！

ミク……
 熱くてニユルニユル
 気持ちがいいー



「動くよミク」
 「え？」
 すにゅ……すにゅにゅ……
 「はっ……あうら……あっ！ひい！」
 彼が臍を動かすと、私の臍が彼のモノと擦れて今までになかった一番の刺
 激を感じる。すちゅっすちゅっすちゅら！
 「うわ。突くたびに雷がしぶきを上げてる。ミク、潮吹いてるのかな？」
 「うん出ちゃうのっ！もっと突いてっ！」
 潮って……わ、わがらいよお。私がおがしくなっちゃら……！
 パンパンパン。すにゅすにゅにゅっ——！
 「ダメだ。ミクのごち熱くてニユルニユルで気持ちいい！」
 「ああんっ！もっと感じて。私をぐちゃぐちゃにしてね！」
 下半身が痺れてもう……私は何が何だかわからない。
 でもああ……気持ちいい。勝手に喋ってしまうのは、もしがして私の心の
 ひなのかも。ご主人様は無我夢中で私を求めている。……それなら、どう
 になってしまうのもいい……のかな。
 「あっ……あっ！あんっああんっ！あんらッ！！」
 すでに私はお尻を挿って彼に添えていた。

ミクーいつもの、
いつもの綺麗な
歌声で鳴いてくれー

私の大好きなご主人様♪
あんっ！ 私も好きなだけ
感じてくださいね♪

彼は腰を振るスピードを上げて、私のお尻に腰を打ち付
けていた。そのたびにお尻がぶるぶる震える。
「ミクだめだ！もう！」
「あっあんっ！来て、来て！！」
彼は後ろからぶるんぶるんと暴れている私のおっぱい
を揉む。むにゅむにゅっ！
「ミクッミクッ！お前の身体、最高だよ！ 柔らかくて
イキそうだ！」



「や、だめ、そんなに激しくしたら……！あっ
ミクモイク！またイっちゃうよ！！」
お尻から胸まで私の部分全てが犯されていた。
「ミク、いつもの、いつもの綺麗な歌声で鳴い
てくれ！」

「は、はい！ 私の大好きなご主人様♪ あ
んっ！ 私を好きなだけ感じてくださいね♪」
「ミク、かわいいミク！ミクウウツ——！」
びゅく！びゅくるる……びゅくびゅくっ！
彼は歌う私をバックで突き上げながら腰に熱い
ものを吐き出した。そうして絶頂のまま私の身
体をまさぐり抱きつく。

「あっあっあん♪ きゃう……イクっ！ ん
あッ！ んあああああああ——っ！！」
私は余りの快樂に頭が真っ白になった。

「んあ……あっ……ああっ……んあ……！」
びくんっびくんっとなら私のお尻を突き上げられた
まま、肌で突っ伏して産卵していたのだ。あッ。
「ふふふ……やっぱり打ち込んだとおりに喘んで
くれるんだな」
意識が落ちる前に、私はがすがに声を聞いた気が
した。

「おはようミク」
「あ、おはようございませう、ご主人様」
私は寝ぼけ眼をこすりながらベッドから起き上
がった。
あれ？ そういえば昨日なにがあったような
……思い出せない。
「さあミク、今日も歌を歌っておくれ」
「あ、うん、ご主人様のために歌うね！」
まいっが、だってご主人様は、こんなに優しい
笑顔でミクに向けてくれているのだから。

あっミクモイク！
またイっちゃうよ！！
あっあっあん♪

ミク、かわいいミクー
ミクウウツ——！

きゃう……
イクっ！んあッ！
んあああああああ——っ！！

—END



いかがでしたしょーか？

黒ミクさんって…
ダシなんだらうっ？

？
？

あれ？
ぞういえば



今更になって
気付いたか…
こうなったら
しがたがないーッ！

もしかして
これが噂のハクリ
ってやつじゃあ…

なんだが私と同じような
格好してるけど
あなたはいつだい？

お種古殿しいし
変な歌歌わせるし
いつの間にか
居ましたよね

ポムッ！



ふはははははー！！
WINEご機嫌上！

あー！
要人が出て来たー！

ROM人誌
ラグインシリーズも
よろしく！

はいぱー魔女っつ学園ベリ!!

2008年4月末発売予定!

ソアール

wiz 恋の魔法

「いやー、若えもんはいいですなあ」
ノイエさんは他人事のようにニヤニヤしている。

「まあるい月の夜だったー」

主人公、朝霧聖示(セージ)には密かに想いを寄せるクラスメイトが居た。
その女の子は控えめで優しい学園のアイドル、冠野梨々(リリ)。

そこへ突如、現れたるは謎の魔法使いノイエさん。
世間離れた彼女の大魔法で、辺りはハチャメチャ大混乱!?

果たして主人公の恋の行方は? 卒業まで残された期日はあと1ヶ月——!



やたのです。
相変わらず「ソアール wiz 恋の魔法」の原画やってます。前回の本で各コミあたり
に出るとか書いておいて、どうやら間に合わなかったらしい…><
けつこうハードだったもんね、ルナ systemの開発チーム…。

そんなわけで春まで猶予できたのでCG枚数とか内容とか、さらに充実させる予
定…。受ければこみつく1でいよいよ本編を発売できると思うので、良かったら
遊んでやってくださいネ。渾身込めて描いたので! あ、もちろんゲームも面白
いですよ〜!(きつと)



[HP] <http://www.lunasy.com/>
[Mail] luna@lunasy.com

動作環境

- CPU : Pentium以降 1GHz以上推奨
- OS : Windows 98/ME/2000/XP
- V I D E O : 65536色 (TrueColor, 16bit) 以上
- メモリ : 256MB以上
- HDD容量 : 1GMB以上
- メディア : DVD-ROM

あとがき

今回は超珍しく少し早めにごを書いたりするので、例のような締切数時間前の恐怖がっ×
というような実況中継はないです。うん、それはとってもいいこと、だつて締切まであと2日もあるのだから!
でも、どうせまだできてない『イラストページ』や『おわりに4コマ』あたりのときに、当日コミマ数時間の戦いを繰り上げてひーひー言っ
てそうであ……。

そんなわけで『みくみくパフェ☆』いかがでしたでしょうーか?

ミクはミニスカニーソ+巨乳(ウチ仕様)は普通に可愛いですが、やっぱりニコニコ動画とか作品を見ながら聞くと愛着の湧き方が
断然違います。初音ミクで検索して再生回数が多いものから見るのがオススメ。そういうのはだいたいクオリティが高いと思います。
ネタも多いですが(笑)見るだけならただで登録できるので、気になった方はチェックしてはどうでしょう。

そして、いよいよ12/27に競音リン&レンが発売ですね!

どんな歌声になるのかな?音職人の皆さんには期待してますー。年明けからはミクとリンでわくわく過ごせそう。個人的には次の3キャラ
目も気になるところ、クール系らしいですが……。ロングヘアだと嬉しいな♪

……さて近況でも。

ROはまだ課金してます。いよいよ5周年ですねえ。長かった。本当はRAGin15でも出してバインスパッチやアニバーサリーについて
くわああああつと書こうと思ってたんですが……。今回はWiz歳出するので精一杯(笑) また機会があれば。

最近PSUでけっこう遊んでます。周りの人を巻き込んでちょこちょここと、PSOマップとか武器とか入ったので面白くなってきた。
遂にスプニがこの手に……。微妙に盛り上がってます。
普通のゲームのほうは東方とうみねを現在プレイ中。まったり進行。

あとはニコニコ見てるか絵を描いてるか……。ニコニコはミク以外だとスーパーマリオとか東方とかフタエノキフミとか見ると幸
せ……。でもさすがに本は出せないよねえ。そして、いつも途中でふと机に返って、時計を見て愕然とするのです。ああいつの間に数時
間が……。ま、でもいっか。みたいな(笑) 原稿中は良くないのですが。

今年はホント慌ただしくて……。なんだか活動は地味だったんですが、来年はなんか違う気がする。うーん、頑張るぞ〜(´Д`)ノ

ではさっそくIoliticイベント情報。

次のイベントは

2月 サンクリ38、3月 コスチュームカフェ、4月 こみつく1

を予定しています。何かしら出ると思うので、良ければちらっと覗いてやってくださいね。詳細はサイトにてチェック。

それでは2007年はお疲れ様でした。

良いお年を〜(´ー´)ノ



発効日 2007年12月29日

発行元 lo lite

発行者 やたの

印刷 緑陽社

[H P] <http://www.diana.dti.ne.jp/~yatahime/iolite/>

[E-Mail] yatahime@diana.dti.ne.jp

感想などありましたらメールにてお送りいただけると嬉しいです^^
本書の一部または全部を無断転載、複製、複写することを禁じます。



MikuMiku Parfait

VOCALOID: HATSUNE MIKU FAN BOOK!
Io lite presents 2007

